

教育研究業績書

2017年05月29日

所属：教育研究所

資格：教授

氏名：押谷 由夫

研究分野	研究内容のキーワード
教育学、道徳教育、教育社会学	道徳教育、特別の教科道徳、総合単元的道徳学習、教育改革、学校経営、学級経営
学位	最終学歴
博士（教育学）	広島大学大学院教育学研究科博士課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 教育方法の工夫	2017年4月8日～現在	・ノート指導の徹底（授業のノートだけでなく課題やホームワークも含めて自分独自のノートテキストを創る、授業において定期的に確認し指導する） ・毎回資料を作り配布する。配布資料や宿題をもとに、グループワークや演習も取り入れる
2 作成した教科書、教材		
1. 『道徳教育の理念と実践』NHK出版	2016年3月	放送大学の大学院科目のテキストとして編集した。自分にとっての道徳教育、社会にとっての道徳教育、道徳教育の本質、道徳性の発達と育成、外国の道徳教育、日本の道徳教育の変遷、「特別の教科 道徳」の理念と具体的転回、これからの道徳教育の課題と展望 などについて専門的にまとめている。
2. 『自ら学ぶ道徳教育（第2版）』保育出版社	2016年10月1日	教育課程に「特別の教科 道徳」が設置されたのを機に、それに対応したテキストを改定版として編集した。基礎編と応用編からなり、道徳教育の本質、道徳性の発達、道徳教育の歴史、道徳教育の法的規定と実際、外国の道徳教育、教育課題に対応した道徳教育、多様な道徳の授業についてまとめている。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 文部省、文部科学省で道徳教育担当の教科調査官として勤務する	1988年4月1日2001年9月30日	道徳教育担当の教科調査官として文部行政にかかわる。学習指導要領や心のノートの編集、各種指導資料の作成、などを担当。各地の研修会や学会、教育委員会、学校等を訪問し公園等を行う。退職後も文科省の専門委員会や中教審の委員などを歴任。
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 取得している免許	1976年3月	小学校、中学校、高等学校の各専修免許を取得している
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 小学校における「特別の教科 道徳」の実践	共	2016年4月	北大路書房	文部科学省は道徳教育の抜本的改善・充実を図るべく「特別の教科 道徳」を設置し、様々な提案や取り組みを行っている。本書では、小学校においてどのように具体化すればよいかを理論面の押さえと実践面での様々な方法の提案を行っている。（担当部分）第1章 これからの時代に求められる小学校の道徳教育を担当 1-15頁 渡邊満、押谷由夫、渡邊隆信、小川哲哉編著
2. 道徳教育の理念と方法	共	2016年3月	放送大学教育振興会	「人間としていかに生きるべきか」と、それを個人的課題及び社会的課題として「どのように追い求めていくか」という視点から、理論的押さえと、具体的取り組みを世界的視点からとらえ我が国の道徳教育の在り方と方向性について、論じた。また、これからの道徳教育について、自らの生き方とかかわらせて、具体的展望をもてるようにすることを目指した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
3. 体験の風をおこそう 改訂版	共	2015年2月	悠光堂	<p>(担当部分) 1章 道德教育とは何か(1)、第2章 道德教育とは何か(2)、第8章 中国、韓国における道德教育の動向、第9章 日本における道德教育の変遷と動向、第11章 「特別の教科道德」の理念と方法、第14章 これからの道德教育の展望と課題、第15章 まとめ一考「私にとっての道德教育」を担当</p> <p>押谷由夫編著 押谷由夫、諸富祥彦、西野真由美、新井浅浩、永田繁雄</p> <p>今日求められる体験活動の在り方と意義について、まとめ具体的実践例を消化しつつこれからの体験活動の取り組み方についてまとめている。</p> <p>(担当部分) 第1章の2の[1] 学習指導要領と体験活動を担当 21-26頁</p> <p>田中壮一郎 明石要一 押谷由夫 蓬田高正 金藤ふゆ子 鈴木真理 久保田康雄 青山鉄兵 松村純子 進藤哲也 樋口拓 藤井玄 片山貞美 室井修一 友松由実 佐藤英樹 北見靖直</p>
4. 道德の時代をつくる	共	2014年7月	教育出版	<p>道德教育の抜本的改革が提案され取り組まれているが、そのもっとも大きなものに「特別の教科 道德」の設置がある。その背景を明らかにし、「特別の教科 道德」がどのようなものとして計画されているのか、さらにそれをどのように展開していけばよいのかについて、指導方法、評価、制度の改革等について今回の道德教育改革にかかわっている研究者と一緒にまとめた。</p> <p>(担当部分) 1「特別の教科道德」の在り方2?9頁 「6 『私たちの道德』から設計する」76?81頁</p> <p>特別の教科道德はどのような目標とすべきなのかについて、道德教育の学校教育全体に占める役割、道德教育の要としての役割という視点から論述した。また、現在児童生徒に配布されている「私たちの道德」をどのように活用して「特別の教科 道德」に活用していけばよいのかについて論じた。</p> <p>押谷由夫、柳沼良太編著、押谷由夫、柳沼良太、新井浅浩、貝塚茂樹、関根明伸、西野真由美、松本美奈</p>
5. 道德の時代がきた!	共	2013年10月	教育出版	<p>文部科学省では、道德の時間を特別教科にするための審議が行われている。その経緯と目的について明らかにするとともに、具体的にどのような教科にしていくべきなのかを追究している。そして、外国の実態や国際的な動向についても明らかにしている。それらをとおして「特別の教科道德」への期待と課題についても分析している。</p> <p>(担当部分) 「1 道德の教科化の理念と目的とは何か」2-10頁 道德教育の重要性を静養の教育史を紐解くことから明らかにし、我が国の改正教育基本法の理念等を分析することから、学校教育の中核としての道德教育の特質及びその要となる「特別の教科 道德」の具体的目標と方法について論じた。</p> <p>押谷由夫、柳沼良太編著、押谷由夫、柳沼良太、貝塚茂樹、西野真由美、関根明伸、松本美奈</p>
6. 戦後道德教育を築いた人々と21世紀の課題	共	2012年6月	教育出版	<p>戦後の新しい道德教育創生期において道德教育の振興に尽力された先覚者の思想と実践を再検討するとともに、戦後から現在に至るまでの道德教育の問題点を概観しその対処等について考察している。</p> <p>(担当部分) 「2 道德教育の論争一特設「道德」をめぐって」228-241頁</p> <p>戦後の道德教育しにおいて昭和33年の道德の時間お得説は画期的なことであった。しかし強烈な反対運動が展開された。それから55年以上経た現在においてそれらの批判は当たっていたのかどうか検証する必要がある。本稿においては、政治的イデオロギー的批判、指導内容や方法に関する批判にわけて、詳細に分析し、これからの道德教育にいかにかかわるかを述べた。</p> <p>赤堀博行、板倉栄一郎、岩佐信道、押谷慶昭、押谷由夫、貝塚茂樹、加藤一雄、金井肇、笹井和夫、七條正典、田井康雄、高島元洋、竹内善一、谷田増幸、田沼茂紀、永田繁雄、花澤秀文、林泰成、廣川正昭、森岡卓也、行安茂、横山利弘、渡部武</p>
7. 道德性形成・德育論	共	2011年9月	放送大学教育振興会	<p>道德性がどのように形成されていくのかについて、自己を振り返ることを通して考えながら理論的押さえをすることをを行った。また、我が国の道德教育の歴史歴史と現状、中国や韓国、アメリカ、ヨーロッパにおける道德教育の歴史と現状を明らかにすることによって、これからの道德教育のあり方を考えようとした。その中で我が国の道德教育のよさと課題をも明らかにした。</p> <p>(担当部分) 第1章 「私にとっての道德教育」とは</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1 著書				
8. 新しい指導要録とこれからの評価	共	2010年6月	ぎょうせい	<p>何かを考えてみよう」、第2章 「心ということばの一般的用法」から道徳教育を考えてみよう、第9章 戦後の道徳教育の動向を探ってみよう(1)、第10章 戦後の道徳教育の動向を探ってみよう(2)、第13章 中国、韓国における道徳教育の動向を探ってみよう、第14章 我が国の特質を生かした道徳教育をいかに進めるかを考えてみよう、第15章 「これからの私にとっての道徳教育」について考えてみようを担当 11-45 142-180 236-169頁</p> <p>押谷由夫編著、押谷由夫、湯浅邦弘、高島元洋、貝塚茂樹、伴恒信</p> <p>学習指導要領の改訂に合わせて指導要録の改訂が行われた。その解説を中心として、各教科や道徳、特別活動、総合的な学習の時間等の評価をどのようにとらえ具体化すればよいのかについて論じている。 (担当部分) 道徳(小学校)を担当108-109頁 (1)道徳教育における評価の捉え方 (2)道徳学習への関心・意欲・態度の評価 (3)道徳実践の評価 (4)道徳実践力の評価 (5)自己評価力を評価するについて論じた。 無藤隆、押谷由夫 他</p>
9. 新しい時代の特別活動一個が生きる集団活動を創造するー	共	2010年4月	ミネヴァ書房	<p>これからの特別活動の在り方と具体的展開について、今日的課題を踏まえて提案を行っている。特に個が生きる集団活動を積極的に取り組んで、個と集団が共に育つ学校にしていくうえで極めて重要であることを理論的実践的に明らかにしている。 (担当部分) 第7章 特別活動と道徳教育 を担当 107-121頁 (1) 特別活動と道徳教育 (2) 特別活動の内容と道徳教育 (3) 特別活動と道徳の時間の関連 (4) これからの学校教育を支える道徳教育の確立 —総合単元的道徳学習を構想する視点— について論じた。 相原次男、南本長徳、新富康央、押谷由夫他</p>
10. 発達・制度・社会からみた教育学	共	2010年4月	北大路書房	<p>教育について発達の側面と、制度的側面と社会的側面を取り出し、それらについて特に教育社会学的視点から分析を行い、これからの教育の在り方や教育改革について考えようとするものである。 (担当部分) 第8章 カリキュラムと指導(教育内容)を担当 89-101頁 (1) 学校のカリキュラム編成にかかわる法的規定 (2) 学習指導要領の運用上の規定 (3) 新学習指導要領の特質と内容 について論じた。 伴恒信、南本長徳 押谷由夫 他</p>
11. 教育社会学概論	共	2010年3月	ミネルヴァ書房	<p>(全体概要) 教育社会学の今日的課題と最新の研究成果を踏まえた分析及び理論の紹介をしている (担当部分) カリキュラム(53-68頁) 1 カリキュラム研究の領域 2 学校のカリキュラム編成にかかわる法的規定 3 学習指導要領の作成過程 4 各学校におけるカリキュラムに関する研究 有本章、山崎博敏、山野井敦徳 他</p>
12. 心に響くあの人のことば(全5巻)	共	2010年2月	学研	<p>1 自分を励ます 2 悩みを解決する 3 夢と希望があふれる 4 仲間を思いやる 5 家族を大切に 押谷由夫監修(各巻43頁頁)</p>
13. 各教科で行う道徳指導	共	2009年7月	教育開発研究所	<p>新学習指導要領において強調されている全教育活動を通しての道徳教育について、その基本的あり方と具体的実践をまとめている。執筆担当部分においては、これからの道徳教育が目指すものを明確にし、そのための重点として全教育活動における道徳教育と要としての道徳の時間の充実方策を示し、各教科における道徳教育の充実方策を5点にわたって述べた。 押谷由夫編集 押谷由夫、永田繁雄、新宮弘識、他 30人(199(執筆担当2-7頁)頁)</p>
14. 平成20年改訂 小学校教育課程講座 道徳	共	2009年3月	ぎょうせい	<p>全体概要) 平成20年3月に改訂された新学習指導要領の道徳教育に関する改善について全般にわたって解説と課題と具体的実践例をまとめている。 (担当部分) 「第2章 道徳教育の変遷」10~1</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1 著書				
15. 教員免許更新ハンドブック	共	2009年2月	明治図書（総頁265）	<p>7頁 道徳教育の戦後の変遷を学習指導要領の変遷をもとに明らかにした。特に昭和33年の道徳の時間の特設とそれ以後の動向を中心としてまとめた。 編者 小寺正一 福田富美雄 執筆者 赤堀博行 朝倉諭美子 荒木篤人 池田なほみ 大宮俊恵 押谷由夫 他33名 （263（総頁）頁）</p> <p>（全体概要）平成21年度より始まる「教員免許更新制」において、どのような内容の講義や授業が求められるのかについて、基本的なものを整理し具体的内容を示している。また、免許更新のカリキュラム作成基準や試験問題予想等についてもまとめている。 （担当部分）「道徳・特別活動の指導」130～138頁 教員免許更新時の講習において押さえるべき道徳教育、特別活動の内容についてまとめている。 編者 山極隆 千々布敏弥 執筆者 及川美美子 善野八千子 大竹晋吾 佐藤敬子 小島宏 佐藤晴雄 押谷由夫 他15名</p>
16. 組織活性化を目指す マネジメント道徳教育推進教師	共	2009年12月	（教育開発研究所）	<p>（全体概要）これからの教育において求められるスクール・マネジメントについて理論的・実践的にまとめられている。 （担当部分）道徳教育推進教師（142-143頁） （担当部分概要）新学習指導要領において明記された道徳教育推進教師について、その意図と役割について論述した。道徳教育をチームで取り組むこと、そのリーダーが道徳教育推進教師であることを明確にし、学校における道徳教育の充実にはたす役割についてまとめた。 高階玲治 他 総頁246</p>
17. 道徳 小学校新学習指導要領ポイントと授業づくり	共	2009年1月	東洋館出版社（総頁210）	<p>（全体概要）新学習指導要領における道徳教育の改善について論述すると共に特に道徳の時間をどのように改善すればいいのかについて、具体的提案と実践例をまとめている。 （担当部分）「これからの道徳教育を共につくろう」186～192頁 これからの道徳教育のあり方について、学校を人間教育の場にする、教師自身の道徳教育について考えること、道徳教育の基盤となる教育・学習環境を整えること、道徳教育の協力体制をつくること、各教科等における道徳教育を充実させること、要としての道徳の時間を充実させること、学校・家庭・地域連携を深めることとの7点から論じた。 編者 道徳教育改善研究会 執筆者 赤堀博行 朝倉諭美子 石井梅雄 芋生修一 植田清宏 大宮俊恵 生越詔二 押谷由夫 他21名</p>
18. 小学校学習指導要領の解説と展開 道徳編	共	2008年8月	（教育出版）195頁	<p>（全体概要）平成20年3月に告示された新学習指導要領における道徳教育の改善について要点を解説すると共にそれに則した新しい道徳教育の指導についてまとめている。 （担当部分概要）2～9ページ 教育課程改善の基本方針について、特に、教育課程の改訂で重視されたこと、改正教育基本法と新学習指導要領、「生きる力」の理念、豊かな心重視の背景について論述した。 監修 安彦忠彦、編者 押谷由夫 小寺正一、執筆者 朝倉諭美子 岩崎奈緒美 押谷由夫 神笠雅司 他 16名</p>
19. 小学校新学習指導要領の展開 道徳編		2008年12月	明治図書	<p>（全体概要）平成20年3月に告示された新学習指導要領の改訂の要点とその趣旨及びそれらを踏まえた実践上の課題と対応についてまとめた。 （担当部分）12～14頁 改正教育基本法に示された理念の具体化、「生きる力」の育成、「豊かな心」を基盤とした「確かな学力」について論述した。 編者 押谷由夫 福田富美雄、執筆者 押谷由夫 福田富美雄 小寺正一 島恒生 他41名（総頁228頁）</p>
20. 改訂学習指導要領に対応した学校経営の展開 中学校編	共	2008年12月	（第一法規）	<p>（全体概要）学習指導要領の改訂に伴う学校経営の改善について、新学習指導要</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1 著書				
21. 『保育と道徳』	共	2006年4月	保育出版社 (総頁数212)	<p>領の改訂のポイントと、趣旨を踏まえた経営課題の重点ポイント及び、カリキュラムマネージメントの実践について中学校に焦点化してまとめている。</p> <p>(担当部分) 「道徳教育の充実」 44～49頁 特に新学習指導要領の総則部分において改善されたことについて解説をすると共に、具体的改善策について論じた。</p> <p>監修 天笠茂、 編著 尾木和英 草野一紀 執筆 者 赤坂寅夫 天笠茂 大野 容義 岡田行雄、小川崇 尾木和英 押谷由夫 河村久 草野一紀 他 27名 (総頁251)</p> <p>(全体概要) 幼児期からの道徳教育の必要性が叫ばれている。従来道徳性の育成は道徳的判断力をつく小学校からとしていたが、幼児期において道徳性の芽生えをはぐくむ教育の必要性が主張されている。その背景と具体的取組みについてまとめた。</p> <p>(担当部分) 全体の編集と9-14頁 (概要) 幼児期において道徳教育をどのように押さえ取り組んでいけばいいのかについて提案した。とくに、行動基準の形成と道徳教育の関連性をおさえ、幼児期からの道徳教育の必要性を強調した。(編者：小田豊、押谷由夫 分担執筆：押谷由夫、小田豊、森光義昭、田沼茂紀、尾高重明、横山文樹、松本淳、石井正子)</p>
22. 『道徳授業の新しいアプローチ』	共	2005年9月	明治図書 (総頁数191頁)	<p>(全体概要) 小学校中学校では、道徳の時間における指導方法について関心が高まっている。本書は、今日の道徳の時間の授業展開において取り組まれている代表的な10の方法を取り上げ、それぞれの理論と実践を紹介している。</p> <p>(担当部分) 116-122頁 (概要) 私の主張する「総合単元的道徳学習」について、理論的な押さえを行った。特に、子どもたちの意識の連続性と道徳の時間が中核的役割が果たせるようにすることを基本に論述した。</p> <p>(編者：諸富祥彦 分担執筆：諸富祥彦、小高正浩、斉藤優、林泰成、田原早苗、渡辺弥生、橋本由美子、荒木紀幸、鈴木憲、中村正志、押谷由夫、長井圭子、伊藤啓一、加藤英樹、土田雄一、清水保徳)</p>
23. 学校新時代の教育・教師	共	2005年7月	東洋館出版社 (総頁数220頁)	<p>(全体概要) 今日の学校に求められる教師のあり方について、まとめたものである。21世紀の学校と教育、生きる力を育成する学校、新しい教育の実践者としての教師、の3部構成から成り、実践や理論を踏まえて論述している。</p> <p>(担当部分) 60-67頁、90-96頁 (概要) いつの時代にも変わらない、豊かな人間性と教育愛をもった教師をどのように育てていくか、また、とくに道徳教育の指導ができる教師になるための心構えや指導方法等について論述した。</p> <p>(編者：成田國英、宮川八岐 分担執筆：成田國英、宮川八岐、吉富芳正、嶋野道弘、押谷由夫、新富康央、村越晃、北俊夫、有村久春)</p>
24. 現代教育の原理と方法	共	2004年7月	勁草書房 (総頁数220頁)	<p>(全体概要) 今日的視点から教育原理の基礎知識を整理し、最新の課題や歴史的事項、臨床的問題を取り上げその対応について、具体的実践、行政的施策等も踏まえて論及している。</p> <p>(担当部分) 134-148頁 (概要) 「道徳・特別活動の原理と方法」を担当。今日の学校教育における道徳・特別活動の現状と課題、具体的対応について最新の資料をもとに論じた。</p> <p>(編者：安彦忠彦、石堂常世、分担執筆：安彦忠彦、石堂常世、麻柄啓一、小松郁夫、湯川次義、藤井千春、白石裕、長島啓記、葉養正明、三尾忠男、押谷由夫、古賀毅、鈴木康明、柘植雅義、池田和司)</p>
25. 道徳の授業 (全6巻)	共	2003年8月	教育出版 (各巻総頁数 約130頁)	<p>(全体概要) 小学校の各学年ごとに道徳授業の実践について、学校現場で実際に指導している最先端の事例を紹介し、解説を加え、新しい道徳の授業の動向と実際を明らかにしている。</p> <p>(担当部分) 各巻2-14頁 (概要) 全体の企画と編集を担当した。また、それぞれの全事例に対してコメントを加えた。さらに、巻頭論文でこれからの道徳教育の課題と展望について述べている。</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
26. 最新教育基本用語	共	2003年6月	小学館 (総頁数450頁)	<p>(编者：押谷由夫 分担執筆：押谷由夫、馬庭直樹、水野生康、三浦文恵、池田幸江、香川和代、佐藤さくら、青木将英、泰地京子、永井裕、八木下陽子、大沼あゆみ、平良徳、川路道文、岡田佳子、漆山仁志)</p> <p>全体概要) 新学習指導要領に対応した、教育基本用語を洗い出し、各分野ごとに基本用語の解説を行っている。(担当部分) 234-243頁を担当 (概要) 道徳教育を担当した。道徳教育の理解をするための基本用語を新学習指導要領の理解を深めることを中心として抽出し、その解説を行った。 (编者：米村明彦 分担執筆：水元徳明、榎本博明、浜田博文、天笠茂、平井貴美代、小野田正利、浅田昇平、牛渡淳、山崎保寿、加藤幸次、村川雅弘、田中耕治、押谷由夫、堀井啓幸、佐藤群衛、石川哲也)</p>
27. 青少年の体験活動・ボランティア活動	共	2003年4月	国立教育政策研究所 社会教育実践研究実践センター (総頁数142頁)	<p>(全体概要) 中央教育審議会答申「青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について」(平成14年7月)で提案された青少年の体験活動・ボランティア活動をどのように充実させていくかを提案するものである。本書では特に「事前学習」プログラムについて、実態調査等を基に論究している。 (担当部分) 9-13頁 (概要) 「学校が実施する事前学習」を担当。学校における体験活動・ボランティア活動をすすめる意義と事前学習プログラムを作成する際のポイントについてまとめた。 (分担執筆：興梠寛、永井順國、押谷由夫、井上講四、岩崎久美子、木村清一、大滝富夫、多田元樹、真柄正幸、結城光夫)</p>
28. 道徳の指導法	共	2003年4月	玉川大学出版部 (総頁数179頁)	<p>(全体概要) 教育職員免許法の改定に伴い、道徳の指導法が新しく設けられた。従来、道徳教育の研究において理論的な指導が主であったのが、道徳の授業の指導のあり方に重点をおいた指導が求められている。その趣旨にしたがったテキストを作成した。 (担当部分) 131-147頁 (概要) 「学校、家庭、地域社会」を担当。これからの道徳教育において学校、家庭、地域の連携は不可欠である。そのことは今まで言われてきたことである。どう具体化するかが問われる。本稿ではいかに地域を巻き込んだ道徳学習を計画するかを中心にまとめた。 (编者：村田昇 分担執筆：村田昇、生馬寛信、坂越正樹、押谷由夫、堺正之、富江英俊、長野正、林忠幸、村田昇、渡辺満)</p>
29. さわやかマナー (全3巻)	共	2003年4月	玉川大学出版部 (各巻総頁数120頁)	<p>(全体概要) 道徳教育にとって最も大切な基本的生活習慣の育成を図るための子ども用の教材を開発した。(担当部分) 各巻 1-5頁 (概要) 全体の企画と編集を担当した。それぞれの巻に自作資料を1編ずつ開発し掲載している。 (编者：押谷由夫、小川信夫、岩崎明 分担執筆：小川信夫、岩崎明、押谷由夫、永井昭、岡部由美子、永井かおり、石塚民子、井上さやか、乙訓武石、大下久美子、小野正、及川道雄)</p>
30. 学校における外部人材の活用の在り方に関する実践的研究 (平成14年度文部科学省委託研究)	共	2003年4月	学校ボランティア活動研究会(代表 熱海則夫) (総頁数87頁)	<p>(全体概要) 文部科学省が進めようとしている外部人材を活用した学校教育のあり方について、理論的検討を行うとともに、実態及び課題を明らかにし今後に向けての提案を行う。 (担当部分) 3-6頁 (概要) これからの学校教育における外部人材活用の必要性について、理論的に明らかにした。特に、これからの学校が、家庭や地域との連携が不可欠であること、子どもの未来を生きる力を育成するには様々な分野の専門家や人々の協力が不可欠なことなどを論述した。 (分担執筆：押上武文、成田國英、押谷由夫、小川哲男、井出一雄、内藤幹夫、増山博、松本忠志柳辰男)</p>
31. 子ども支援の教育社会学	共	2002年9月	北大路書房 (総頁数198頁)	<p>(全体概要) 教育社会学の今日的研究を踏まえて、教育社会学の最新のテキストとして利用できるように編集している。子どもの発達を社会とのかかわりで捉える第1部と、社会の中の学校・学校社会を分析する第2部と、社会の変化がもたらす子どもの現</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
32. 世界の道徳教育	共	2002年4月	玉川大学出版部 (総頁数212頁)	<p>状を分析する第3部で構成している。 (担当部分) 71-81頁 (概要) 学校における教育課程の機軸を定める学習指導要領が、どのような経緯を経て作られていくのかを、平成10年に改訂された学習指導要領を例にして分析した。 (編者：南本長穂、伴恒信 分担執筆：新堀通也、伴恒信、加野芳正、安東由則、白松賢、南本長穂、押谷由夫、太田佳光、須田康之、山田浩之、村上登司文、村上光朗、伴京子)</p> <p>(全体概要) ユネスコが世界の英知を集めて各国の道徳教育の基礎と背景についてまとめた道徳教育特集号から選んで翻訳したものと、独自の論文をあわせて編集している。 (担当部分) 148-179頁 (概要) 全体の編集と「日本の道徳教育の特徴とこれからの方向」を担当。我が国の道徳教育の特徴について、歴史の変遷と教育課程における独自の位置付け、及びこれからの目指す方向について国際的視野から論述した。 (訳編者：押谷由夫、伴恒信 分担執筆：伴恒信、押谷由夫 翻訳協力：井上星児、伴京子、井上香里、井上武)</p>
33. 生きる力を育てる教育へのアプローチ	共	2002年1月	黎明書房 (総頁数194頁)	<p>(全体概要) これからの学校教育のキーワードである生きる力について、個を生かす集団学習という立場から具体的な分析を行うとともに、学校の改善方を示す。 (担当部分) 50-72頁 (概要) 「道徳教育へのアプローチ」を担当。個と集団の成長をともに考える学習集団論は、生きる力を育てるこれからの学校教育においてますます重要であることを指摘し、そのことと道徳教育との関連について詳述した。 (編者：高旗正人、相原次男 分担執筆：相原次男、高旗正人、押谷由夫、倉田侃司、野村幸治、新富康央、小田豊、南本長穂、太田佳光)</p>
34. 「道徳の時間」成立過程に関する研究	単	2001年4月	東洋館出版社 (総頁数307頁)	<p>我が国の戦後の道徳教育の確立に向けての変遷を明らかにするとともに、昭和33年に道徳の時間が特設された経緯について明らかにした。特に、従来の研究は、道徳の時間特設反対の立場からのものがほとんどであったが、本研究によって、文部省内部においてどのような検討がなされていたのか、また道徳の時間を特設することで何を意図していたのかを詳細な資料をもとに論究した。</p>
35. 観察・実験、見学・調査活動の指導テクニックとプラン	共	2000年7月	教育開発研究所 (総頁数238頁)	<p>(全体概要) 総合的な学習に時間をはじめとして、新教育課程においては、体験的な学習や問題解決的な学習が重視される。その際特に必要とされる観察・実験及び見学・調査の指導方法と指導計画についてまとめている。 (担当部分) 237-239頁 (概要) 「自己実現によって自信と能力を創る」を担当。子どもたち一人一人が自分に自信をもち、能力をはぐくんでいくためには、自己実現を図る教育が不可欠である。そのための具体的方法について論述した。 (編者：佐島群巳 分担執筆：佐島群巳、宮本恵子、井道子、井上美知子、田中力、小坂靖久、斎藤真紀、小林博美、新川健司、角屋重樹、無藤隆、景山清四郎、宮本光男、押谷由夫)</p>
36. 総合ユニット方式による道徳学習	共	2000年5月	東洋館出版 (総頁数169頁)	<p>(全体概要) 21世紀の道徳学習の新しい方法として、総合ユニット方式を提案。その構造と具体的実践レイを詳述している。 (担当部分) 156-168頁 (概要) 「豊かな自分づくりの基盤となる道徳教育を」を担当。これからの道徳教育の課題を、一人一人の子どもたちが豊かに自分を創っていくようにすることだととらえ、そのための指導方法としての総合ユニット方式の有効性と、具体的な授業改善の実践例について論述している。 (分担執筆：植田清宏、山口昌則、押谷由夫)</p>
37. 教師はどう変わるべきか		2000年11月	教育開発研究所 (総頁数239頁)	<p>(全体概要) 21世紀の学校教育改革において、教師は重要な役割を果たさねばならない。特にこれからの教育が目指す「生きる力」を育成できる教師の力量をどのように身につけていけばいいのかについて論述している。</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1 著書				
38. 新しい道徳教育の理念と方法	単	1999年9月	東洋館出版 (総頁数209頁)	(担当部分) 147-151頁 (概要) 「生き方をはぐくむ道徳教育を推進する教師の力量」を担当。道徳教育を自信をもって取り組める教師になることが不可欠であるが、そのために必要な力量についての具体的な指標と評価方法について提案した。 (編者：高階玲治 分担執筆：高階玲治、高倉翔、児島邦宏、押谷由夫、春日昭、藤川信利、成田喜一郎、永田明弘、金子清、北俊夫、寺尾良雄、中野重人) 今日の道徳教育に対する批判を正面から取り上げ、それを克服するための道徳教育の在り方について論述した。特に子どもたち一人一人が夢や可能性を信じ、希望と勇気をもって生きられる道徳教育の展開を提唱した。
39. 豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人	共	1999年9月	ぎょうせい (総頁数182頁)	全体概要) 今回の教育課程の改訂の基本方針の第1に掲げられた豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人の育成について、基本的な押さえと具体的課題について論述する。 (担当部分) 76-101頁 (概要) 「心の教育と学校教育」を担当。特に学校における心の教育をどのように改善していけばいいのかを、心に響く道徳教育の確立という視点から、論述した。 (編者：山極隆、無藤隆 分担執筆：草原克豪、高橋ヨシ子、押谷由夫、服部祥子、村上美智子、渡辺三枝子、木下康彦、佐藤群衛)
40. 小学生の心の教育	共	1999年9月	日本図書センター (総頁数241頁)	(全体概要) 小学校における心の教育を展開する上で基本となる押さえとそれをいかに実現していくかを、先進的な実践を行っている学校の事例を紹介しながら示している。 (担当部分) 9-16頁 (概要) 全体の編集と「小学校における心の教育の展開」を担当。総合的な学習の時間を体験による道徳教育の時間として位置づけ、道徳の時間と総合的な学習の時間を2つの柱として道徳教育を展開することを提案する。 (編者：押谷由夫、高島元洋 分担執筆：高島元洋、無藤隆、押谷由夫、南本長徳、宮本直和、片岡徳雄、永田繁雄、村田昇、中山和彦、上田昌彦、高橋初男、田中康善、金澤滋典、浅川陽子、後藤美代子、小林優子、木村恵子、広瀬仁郎、上杉賢士、奥嶋勇、中村克巳、土橋照子、奥山夫佐)
41. 心の教育	共	1999年9月	教育開発研究所 (総頁数297頁)	(全体概要) 心の教育の基本的課題を明らかにし、心の教育の基盤となる取組を中心に特色ある学校づくりをしている実践を紹介し、これからの心の教育の方向性を示している。 (担当部分) 8-13頁 (概要) 全体の編集と「新しい時代を拓く心をどう育てるか」を担当。豊かに自分の未来を拓いていくには、人間としてどう生きるかを基盤とした目標と基礎的能力、知識・技能、そして自由の必要性を論じ、具体的な実践の手だてを示した。 (編者：押谷由夫、七條正典 分担執筆：押谷由夫、七條正典、池島徳大、荒木徳也、明石要一、橋本誠司、大宮俊恵、橋本弘子、前田重人、長島清、渡辺周行、大田佳光、福嶋隆幸、森貞弘道、竹内善一)
42. 新しい教育課程と学習指導の実際「道徳」		1999年7月	東洋館出版 (総頁数207頁)	(全体概要) 平成10年に告示された新しい学習指導要領の道徳の内容の解説とその趣旨を生かした道徳教育の具体的展開について、そのポイントと具体例を論述した。 (担当部分) 8-48頁 (概要) 全体の編集と「今回の改訂の全体的な方針と道徳教育に関する改善」を担当。改善の具体について、目標、内容、指導の方法の全体にわたって論述し、これからの道徳教育の方向を示した。 (編者：押谷由夫 分担執筆：押谷由夫、広瀬仁郎、永田繁雄、大宮俊恵、坂本直子、初井俊幸、杉谷睦生、小林優子、寺岡清、宇野成佳、土田暢也、穴吹直美)
43. 新小学校教育課程講座「道徳」	共	1999年11月	ぎょうせい (総頁数278頁)	(全体概要) 平成10年に告示された新しい学習指導要領の全体的な改善のポイントと道徳の改善の解説とその趣旨を生かした道徳教育の具体的展開について、論述

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
44. 総合的な学習の時間の全課題徹底理解	共	1999年1月	教育開発研究所 (総頁数252頁)	<p>した。 (担当部分) 20-61頁 (概要) 全体の編集と「道徳の改訂に向けての提案」を担当。中央教育審議会答申や教育課程審議会答申から実際の改訂までの経緯及び改善の全体についてまとめる。 (編者：伊藤隆二、押谷由夫 分担執筆：伊藤隆二、村田昇、押谷由夫、飯田稔、伊藤啓一、上杉賢士、太田佳光、大宮俊恵、小野健知、加賀谷かおる、加藤一雄、金井肇、上園恒太郎、木村恵子、木村良平、小寺正一、堺正之、坂本哲彦、笹井和郎、佐藤幸治、新宮弘識、永田繁雄)</p> <p>(全体概要) 新しく創設される総合的な学習の時間の理解と指導方法、条件整備、評価について、基本的な課題を論述し、先進的な実践事例を紹介しつつ、具体的方向を示す。 (担当部分) 54-58頁 (概要) 「自己の生き方についての自覚をどうとらえる」を担当。総合的な学習の時間は、体験をベースとして思考力、判断力、表現力等を身に付けるとともに、それらの学習を通して自らの生き方について考えを深めようとするものであるが、その具体について論考した。 (編者：中野重人 分担執筆：中野重人、無藤隆、押谷由夫、荒木まつえ、安東みはる、村上幸恵、長谷豊、庭野優子、西牧康彦、高木昭子、清水雅子、江頭智子、宇賀神佳子、今村好雄、岩本反子)</p>
45. 家族や家庭を大切にすることを育てる	共	1998年9月	明治図書 (総頁数175頁)	<p>(全体概要) 家族に関する課題は、日本社会が抱える最も深刻なものの一つである。学校教育においても、家族や家庭を愛する心の育成を真剣に考えねばならない。その際の留意点やポイントを述べ、全国の優れた実践を紹介している。 (担当部分) 2-10頁 (概要) 全体の編集と「家族や家庭を愛する心を育てるポイント」を担当。感謝する心を基本とし、親(保護者)とのかかわりを振り返ることから自らの在り方を探れるようにすることを提案した。 (編者：押谷由夫 分担執筆：押谷由夫、新堀通也、加地伸行、林道義、服部祥子、望月嵩、山口理、小林優子、田村照子、山本美幸、森志津子、広瀬仁郎、長谷川節子)</p>
46. 豊かな人間性・社会性の育成	共	1998年5月	教育開発研究所 (総頁数230頁)	<p>(全体概要) 豊かな人間性、社会性の育成について、各学問分野の第一線(活躍されている研究者による提言や子どもたちの生の声、具体的実践例等をまとめて編集している。 (担当部分) 3-12頁 (概要) 全体の編集と「豊かな人間性、社会性をはぐくむために」を担当。心の教育、道徳教育の今日的意義について論じ、特に愛、大志、未来をひらく心の大切さを具体的に提案している。 (編者：押谷由夫 分担執筆：押谷由夫、大原健士郎、恒吉僚子、加藤秀俊、佐伯胖、木村治美、奥井智之、野原明、相良亨、中川志郎、小林司、藤田英典、真仁田昭、奥井智久、熊谷文枝、森田孝、大河内良雄、綾部恒雄、和田修二)</p>
47. 未来をひらく道徳教育の研究	共	1998年4月	保育出版社 (総頁数231頁)	<p>(全体概要) これからの道徳教育を、未来をひらくをキーワードに、道徳教育の歴史や外国の道徳教育、学校における道徳教育の実践等をもとに、具体的に論じている。 (担当部分) 15-22頁 (概要) 全体の編集と「これからの道徳教育に求められるもの」を担当。人間存在の危機への対応、人工的環境との共存の課題、急かされる社会、急かされる生活への対応等をもとに論述した。 (編者：中野重人、押谷由夫 分担執筆：中野重人、押谷由夫、今村光章、佐藤幸治、岩間秀行、梅木松助、小川澄江、原田友之、原雄一郎、伴恒信、坂本雅彦、高橋弘道、平山文夫、小林洋文、徳永悦郎、新宮弘識、大森弘、岩本俊夫、高場昭次)</p>
48. 青少年の心の荒廃と心の教育	共	1998年10月	教育開発研究所 (総頁数214頁)	<p>(全体概要) 青少年の心の荒廃を実証する事件や問題が続出しているが、その原因の根本は、戦後50余年の間、大人が心の教育を怠ってきた当然の結果ではないかととらえ、その克服を提案する。 (担当部分) 186-189頁 (概要) 「体験活動と道徳の時間」を担当。道徳的</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
49. 豊かな個性を育む授業	共	1998年1月	教育開発研究所 (総頁数259頁)	<p>価値の自覚を深め道徳的实践力を培う道徳の時間の指導において、体験活動とどのように関連をもたせればいいのかについて論述した。</p> <p>(編者：尾田幸雄 分担執筆：尾田幸雄、古畑和孝、押谷由夫、吉永幸司、松本謙一、佐野美治、福嶋隆幸、中島久之、松井奈津子、藤井登志子、脇田典子、腰塚宗一、高橋初男、山田親朝、奥田和幸、松本清史、南昌成、赤島貞子、谷口晃、内田誠、伊藤隆二)</p> <p>(全体概要) これからの授業のあり方について、最新の理論と実践を元に、豊かな個性を育むという視点から第一線で活躍している研究者や実践者に提案をしてもらっている。</p> <p>(担当部分) 22-25頁 (概要) 授業において、豊かな人間性をどのように育てていくのか、道徳の時間での指導はもちろんのこと、各教科等の授業においても、道徳性の育成にかかわる指導をどのように行えばよいのかについて論述した。</p> <p>(編者：加藤幸次、押谷由夫 分担執筆：加藤幸次、押谷由夫、浅沼茂、中澤米子、嶺岸秀一、内藤俊史、押谷慶昭、小山儀秋、愛野良治)</p>
50. 生きる力をはぐくむ	共	1997年11月	ぎょうせい (総頁数214頁)	<p>(全体概要) これからの教育のキーワードになっている「生きる力」の育成について、創造的知性、心の教育、健康の教育の構造を明らかにし、ゆとりや学校・家庭・地域社会の連携、授業改善の方法等について分析している。</p> <p>(担当部分) 42-66頁 (概要) 「生きる力の基盤を培う心の教育」を担当。生きる力の基盤は、人間としてどう生きるかを学ぶ道徳教育・心の教育である。その役割を果たすための道徳教育・心の教育の在り方について論述した。</p> <p>(編者：河野重男 分担執筆：河野重男、児島邦宏、伴恒信、新富康央、押谷由夫、南本長徳、新堀通也、小川信夫、井上範子、片岡徳雄、相原次男)</p>
51. 生命を大切にすることを育てる	共	1997年1月	生命を大切にすることを育てる	<p>(全体概要) 道徳性の育成にとって最も根本にある生命を大切にすることを育てるについて、基本的な実践上の課題を明確にし、全国からの優れた実践を集めて編集している。</p> <p>(担当部分) 7-14頁 (概要) 全体の編集と「生命を大切にすることを育てる道徳教育のために」を担当。生命があることを喜ぶ、生活のリズムを大切にするとともに生きることの大切さを感じるといった視点から具体的実践について提案した。</p> <p>編者：押谷由夫 分担執筆：押谷由夫、伊藤隆二、和井内良樹、広瀬仁郎、木村恵子、山口理、坂部俊次、鳥越小百合、斎藤真弓、須戸由広、森口健司、加曾利和夫、大野要子、夏目はる子、浅見正弘、森江照、稲住和夫、中尾聡彦、吉澤貞夫、石川雅治、牧正吾、岡村正義、中村哲雄)</p>
52. 教育大変な時代	共	1996年6月	教育開発研究所 (総頁数271頁)	<p>(全体概要) 今日の教育界をみれば、教育大変な時代といえる。社会の批判の目にさらされ、子どもからは反発され、親や教師自身も自信を失っていく。このような現状分析し、乗り切る方法を提案する。</p> <p>(担当部分) 217-228頁 (概要) 「心の教育(道徳教育)の現状と今後の展望」を担当。教育大変な時代の最も大きな課題は道徳教育の充実である。道徳教育大変な時代においていかに再生を図るかを提唱した。</p> <p>(編者：新堀通也 分担執筆：新堀通也、黒羽亮一、高橋史朗、加野芳正、秦政春、伴恒信、木田宏、下村哲夫、柴野昌山、有園格、山本恒夫、住岡英毅、瀬沼克彰、仙崎武、渡辺久義、押谷由夫、藤岡完治、菅井勝雄、安彦忠彦)</p>
53. 生きぬく力を育てる心の教育	共	1996年4月	教育開発研究所 (総頁数262頁)	<p>(全体概要) これからの教育は、変動の激しい社会を豊かな心をもたたくましく生きぬく力を育成しなければならぬ。そのことにかかわって、各学問分野等の第一線で活躍されている識者からの提言と、具体的実践例等について述べられている。</p> <p>(担当部分) 1-19頁 (概要) 全体の編集と「チャートなき時代の心の教育を問う」を担当。今日の道徳教育混迷の背景を戦後の教育から解明し、これからの道徳教育の在り</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
54. 新しい学力観	共	1996年4月	ぎょうせい (総頁数287頁)	方について、学校、家庭、地域社会にわたって提案した。 (編者：押谷由夫 分担執筆：押谷由夫、今道友信、太田次郎、尾田幸雄、加地伸行、勝田吉太郎、勝部真長、上寺久雄、国分康孝、小林登、新堀通也、高橋長逸、永岡順、中野重人、西澤潤一、西部邁、服部祥子、日野原重明、藤田正勝、村井実) (全体概要) 平成3年の指導要録の改訂以来、関心、意欲、態度をはじめ、思考力、判断力、表現力等を優先させた教育改革が進められている。その理論的、実践的な分析を行い、これからの方向を示している。 (担当部分) 252-266頁 (概要) 「新学力観の基盤となる道徳・特別活動」を担当。特に道徳教育、特別活動は、本来新学力観の理念をもとに展開されてきた。そのことを確認しつつ、具体的な改善について論述した。 (編者：下村哲夫、分担執筆：下村哲夫、佐々木俊介、押谷由夫、南本長徳、加野芳正、村上光朗、伴恒信、河野重夫)
55. 総合単元的道徳学習論の提唱	単	1995年7月	文溪堂 (総頁数239頁)	道徳教育の本来の役割を果たす指導の在り方を、総合単元的な道徳学習という新しい考え方を提案し、具体的にどう考え、実践していけばいいのかを詳述した。
56. 心を育てる学校教育の創造	単	1995年7月	光文書院 (総頁数223頁)	道徳教育は、学校教育の中核として位置づけられねばならない。それはどういうことなのかを、学校経営、学級経営とも絡ませながら明らかにし、具体的展開について論述した。
57. 思いやりの心を育てる	共	1995年7月	明治図書 (総頁数215頁)	(全体概要) 今日もつと必要とされる思いやりの心の育成を、道徳の時間を中心として学校教育全体、家庭や地域社会との連携をもとに理論的、実践的に論及している。 (担当部分) 7-11頁 (概要) 全体の編集と「思いやりの心をいかにはぐくむか」を担当。思いやりの心を関係性のなかではぐくまれるものであり、社会的人間として生きていく上で不可欠なものであり、人間のみならず、自然や社会、自己自身との関係においても発揮されるものととらえ論じた。 (編者：押谷由夫 分担執筆：押谷由夫、齊藤勝、飯田徹、富田愛子、中島健次郎、佐久間雅代、佐藤幸治、梶谷悟、新田将人、石井芳則、加藤孔子、竹本恭子、広浜学、中平恵美子、希代修、宮脇さよ子、高見沢正善)
58. 教科外指導の課題	共	1995年6月	学文社 (総頁数252頁)	(全体概要) 学校教育において軽視されがちな教科外の教育について、その学校教育全体における位置づけと役割を明らかにし、具体的展開について論述している。 (担当部分) 44-57頁 (概要) 「『道徳』の歴史的背景と教育的役割」を担当。教科外の教育に位置づけられる「道徳」について、その成立過程、理論的裏付け、その展開の歴史と現状について分析した。 (編者：麻生誠 分担執筆：麻生誠、松本良夫、押谷由夫、秦政春、伴恒信、南本長徳、新富康央、加野芳正、山崎博敏、太田佳光、菊井高雄)
59. 道徳教育新時代	単	1994年12月	国土社 (総頁数183頁)	これからの道徳教育の在り方について、特に子どもたちに夢や希望をはぐくみ、生きる喜びを味わえるようにしていくことを、理論的に追究するとともに、具体的な実践についても提案を行なった。
60. 現代学校教育の社会学	共	1994年1月	福村出版 (総頁数333頁)	(全体概要) 教育社会学の手法を用いて、今日の学校教育がかかえる課題や現状の分析を行い、教育社会学の魅力とこれからの新しい研究課題や方法について論述している。 (担当部分) 211-225頁 (概要) 「総合単元的な道徳学習論」を担当。学校教育最大の課題である道徳教育の具体的展開を、総合単元的な道徳学習論という視点を提案し、その妥当性と可能性について論じた。 (編者：片岡徳雄 分担執筆：片岡徳雄、原田彰、押谷由夫、伴恒信、南本長徳、新富康央、村上光朗、菊井高雄)
61. 道徳教育	共	1993年1月	ミネルバ書房 (総頁数196頁)	全体概要) 道徳教育の全体について、新しい道徳教育の理念と課題、道徳教育と人間存在、道徳性の発達、歴史、全教育活動を通しての道徳教育、道徳の時間にお

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
62. 道徳教育原論	共	1991年12月	福村出版 (総頁数233頁)	ける指導論、学校と家庭・地域社会との連携、世界の国々における道徳教育について論述している。 (担当部分) 76-101頁 (概要) 全体の編集と「新しい道徳教育の理念と課題」を担当。子どものよさに着目し、よさを生かし伸ばす道徳教育、道徳の時間の展開と評価について論考した。 (編者：押谷由夫、内藤俊史 分担執筆：押谷由夫、佐藤幸治、内藤俊史、米山光儀、村山正明、斎藤勉、矢口悦子、西村重夫) (全体概要) 道徳教育は学校教育において最高のかつ究極的な地位が与えられねばならないものである。そのことを本質的、基礎的理論の探究をもとに明らかにし、具体的方法についても論述している。 (担当部分) 149-174頁 (概要) 「道徳教育の場面Ⅲ-学校」を担当。学校において道徳教育がどのような地位が与えられているかを法律面と実際面から分析し、本来の位置が与えられるための方策を提示した。 (編者：小笠原道雄 分担執筆：小笠原道雄、坂越正樹、杉山精一、伴野昌弘、三好信浩、片岡徳雄、原田彰、押谷由夫、山辺光宏、田代尚弘、桜井佳樹)
63. 教育社会学	共	1989年6月	福村出版 (総頁数232頁)	(全体概要) 教育社会学が取り上げるべき内容や研究について、特に社会の変化に対応して教育をどのように展開していけばいいのかを、現状の分析をもとに、全体にわたって詳述している。 (担当部分) 56-66頁 (概要) 遊びと仲間を担当。子どもたちの社会化にとって、遊びや仲間の役割の重要性について明らかにし、現状分析をもとに、それらへの対応について論考した。 (編者：片岡徳雄 分担執筆：片岡徳雄、伴恒信、押谷由夫、高旗正人、森しげる、相原次男、新富康央、河野員博、友田泰正、池田秀男、村上登司文、南本長徳)
64. 現代生涯教育の研究	共	1989年2月	ぎょうせい (総頁数306頁)	(全体概要) 生涯教育の概念が提唱されて20年余りの間に多くの研究がなされた。それらを概観しながら、新しいテーマを見だしその研究の可能性について論じている。 (担当部分) 111-127頁 (概要) 「子ども文化の分析枠組み」を担当。子どもたちの社会化にとって最も大切な子ども文化について、今までの研究を概観しながら、これからの子ども文化研究の方向性を示した。 (編者：新堀通也、分担執筆：池田秀男、住岡英毅、押谷由夫、友田泰正、高旗正人、伴恒信、南本長徳、森しげる、相原次男、原田彰)
65. 道徳的体験の指導	共	1989年12月	文溪堂 (総頁数207頁)	(全体概要) 学校における道徳教育においては、道徳的実践力の指導と道徳的実践の指導が不可欠である。この二つを結びつけていく道徳的体験の指導はどのようにすればいいのかを論述している。 (担当部分) 25-54頁 (概要) 「道徳的体験の教育課程における位置づけ」を担当。学校教育の教育課程において道徳的体験がどのように取り上げられるのかを、学習指導要領や実際の学校経営を基に分析した。 (編者：瀬戸真、分担執筆：瀬戸真、中野重人、押谷由夫、荒川達夫、川辺正、大宮俊恵、村田昇、真仁田昭、尾田幸雄、石川？男)
66. 学校と家庭、地域社会との連携	共	1989年12月	文溪堂 (総頁数205頁)	(全体概要) 学校と家庭、地域社会とが、共通の目標の基に、それぞれの特質に応じた教育機能を生かし、協働しあっていくには、どのような方法があるのかを具体的な例をもとに論述している。 (担当部分) 59-80頁 (概要) 「地域社会における道徳教育の実態と課題」を担当。地域社会における道徳教育のとりえ方、道徳的教育環境の実態、道徳教育的な取組の実態を明らかにし、今後の課題を提案した。 (編者：村田昇 分担執筆：村田昇、住岡英毅、押谷由夫、吉永幸司)
67. 現代生涯教育の研究	共	1985年2月	ぎょうせい (総頁数306頁)	(全体概要) 生涯教育の概念が提唱されて20年余りの間に多くの研究がなされた。それらを概観しながら、新しい

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
68. 教育の環境と病理	共	1984年5月	第一法規 (総頁数310頁)	<p>テーマを見いだしその研究の可能性について論じている。 (担当部分) 111-127頁 (概要) 「子ども文化の分析枠組み」を担当。子どもたちの社会化にとって最も大切な子ども文化について、今までの研究を概観しながら、これからの子ども文化研究の方向性を示した。 (編者：新堀通也、分担執筆：池田秀男、住岡英毅、押谷由夫、友田泰正、高旗正人、伴恒信、南本長徳、森しげる、相原次男、原田彰)</p> <p>(全体概要) 子どもたちの逸脱行動等を教育病理現象ととらえ、それを生み出す環境について分析し、環境がかかえる病理的現象を明らかにしつつ、その克服の方向を示そうとする。 (担当部分) 99-130頁 (概要) 「現代家庭の教育環境」を担当。子どもの社会化と家族集団について理論的な押さえをし、家庭の教育環境を親子関係、家族生活、社会からの影響の3層構造でとらえ、病理的状況を論述した。 (編者：新堀通也、津金沢聡広、分担執筆：新堀通也、津金沢聡広、押谷由夫、伴恒信、南本長徳、相原次男、原田彰、村上光朗、西村重夫)</p>
69. 人間発達の社会学	共	1983年9月	アカデミア出版会 (総頁数299頁)	<p>(全体概要) 人間の発達を幼児期から高齢期までに分けて、それぞれの段階における発達の特性と社会とのかかわりを中心に、実態と望まれるかかわりについて論述している。 (担当部分) 165-183頁 (概要) 「人間の発達と集団(児童期)」を担当。特に児童期において属する学校集団の特質と、子どもたちの生活や学習について分析し、社会化についての課題を論述した。 (編者：高旗正人、讃岐幸治、住岡英毅、分担執筆：高旗正人、讃岐幸治、住岡英毅、押谷由夫、南本長徳、伴恒信、新富康央、村上光朗)</p>
70. 道徳教育	共	1981年9月	有信堂 (総頁数244頁)	<p>(全体概要) 道徳教育の課題と目標・内容、道徳・宗教と教育、道徳性の発達、道徳教育の史的展開、道徳教育の計画、教科指導と道徳教育、道徳的実践の指導、道徳的実践力の育成、家庭・地域社会の連携協力、指導体制の確立など道徳教育の全体にわたって詳述している。 (担当部分) 202-223頁 (概要) 家庭・社会と道徳教育を担当。子どもたちの道徳的社会化について理論的に明確にし、具体的に家庭や地域社会における道徳教育の充実及び学校との連携の在り方について論述した。 (編者：村田昇、分担執筆：村田昇、越後哲治、押谷由夫、大谷光長、畠瀬直子、林忠幸、金井肇、瀬戸真)</p>
71. 教育学	共	1980年4月	福村出版 (総頁数207頁)	<p>全体概要) 教育の目標、内容、方法、親と教師からなる基礎論と、児童観の流れ、子どもと幼稚園・学校、子どもと社会、教育学の課題からなる子どもと教育の2部構成で教育学の原理を押さえている。 (担当部分) 165-180頁 (概要) 子どもと幼稚園・学校を担当し、幼稚園や学校の現状とそこで生活している子どもたちの実態について資料をもとに明らかにし、これからの改善の方向について論じた。 (編者：新堀通也、小笠原道雄、分担執筆：新堀通也、小笠原道雄、押谷由夫、越後哲治、渡辺満、倉田侃司、徳本達夫、林忠幸、荒川達夫)</p>
72. 日本の教育地図	共	1980年3月	ぎょうせい (総頁数365頁)	<p>(全体概要) 教育への投資や努力とその結果との関連について、各県の教育に関するデータをもとに分析し、各県の努力度等を明らかにした。 (担当部分) 307-342頁 (概要) 教育病理現象を4つの視点で分析し、特に教育目標の達成が機能不全に陥っている状況を教育的浪費ととらえ、地域別傾向及びその診断について論じた。 編者：新堀通也 分担執筆：新堀通也、片岡徳雄、押谷由夫、相原次男、南本長徳、伴恒信、新富康央</p>
73. 学校子ども文化の創造	共	1979年2月	金子書房(総頁数298頁)	<p>(全体概要) 学校は子どもたちの生活の場である。独特の学校文化が存在するが、子どもたちが伸び伸びと生活するには、子どもたちが享受する大衆文化を取り入れた学校子ども文化を創っていく必要が</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1 著書				
				ある。 (担当部分) 93-110頁(概要) 文学教材、漫画、小説についての児童の反応分析をもとに、子ども大衆文化の教育的価値について論考した。 編者：片岡徳雄、分担執筆：片岡徳雄、相原次男、伴恒信、南本長徳、押谷由夫、河野員博、新富康央
2 学位論文				
1. 『「道徳の時間」成立過程に関する研究』	単	2001年2月	東洋館出版社	戦後の道徳教育において最もエポックメイキングな改革であった「道徳の時間」の成立過程について、審議会の議事録や文部省の発行資料、推進した人々の著書や論文、日教組などの主張や反対する人々の著書や論文、マスコミや研究会、学会などの動向を中心として、その実態と今日的意義を分析した。
3 学術論文				
1. 中学校社会科における「宗教にかかわる内容」の記述分析	単	2016年3月	研究報告N0.85 『学校における「宗教にかかわる教育」の研究3』中央教育研究所	中学校の社会科教科書において「宗教にかかわる内容」がどのように記述されているかを、4社の教科書を使用し、地理的分野、歴史的分野、公民的分野において分析した。19-51頁
2. 「自己の形成史」ノート(1) 「自己の価値意識形成史」から道徳教育を考える		2016年6月	学苑 初等教育学科紀要 No.9085 6~71頁	教育の根本に自己の生育史がある。自己を振り返ることによって、自分が主張している教育論の根底になるものを見つかることができる。そこをベースとして再度様々な教育的事象を分析してみると今まで以上の深みをもって分析することができる。そのことを道徳教育について行おうとするのが本論文である。
3. 音楽教育への期待	単	2015年6月	日本音楽教育学会編『音楽教育学』正文社	音楽の魅力、生活音楽、生涯音楽、情操音楽という視点から分析しこれからの学校教育における音楽教育への提案を行った。48-52頁
4. 小学校社会科における「宗教にかかわる内容」の記述分析	単	2014年3月	研究報告N0.85 『学校における「宗教にかかわる教育」の研究2』中央教育研究所	小学校の社会科の教科書における「宗教にかかわる内容」がどのように記述されているかを分析した。その際、『小学校学習指導要領解説 社会科編』の分析と照らし合わせて、4社の教科書の実態を明らかにした。43-51頁
5. 「生命に対する畏敬の念」と道徳教育 1	単	2012年10月	研究報告N0.85 『学校における「宗教にかかわる教育」の研究1』中央教育研究所	道徳教育の充実にとって、宗教的情操の教育は欠かせない。しかし、戦後長く特定の宗派教育を抜きに宗教的情操が養えるのかについて論争が繰り返されてきた。その結果、道徳教育が本質に迫れないという状況を醸し出している。現在の学習指導要領にも書かれている「生命に対する畏敬の念」を取り上げ、道徳教育としての重要性と、いかにはぐくんではいけないのかについて提案を行った。18-29頁
6. 人格の基盤となる道徳性を主体的にはぐくむ子どもを育てる	単	2009年3月	日本道徳教育学会編『道徳と教育』	平成20年に新学習指導要領が告示された。新学習指導要領の趣旨の第1は、平成18年に改正された教育基本法の理念を教育課程に具体化することであった。そのことから道徳教育がどのように強調され、改善が図られたかを分析し、今後の課題を明らかにした。11-26頁
7. 子どもの道徳社会的自己形成と道徳教育との関係性に関する調査研究	共	2007年3月	日本道徳教育学会誌 『道徳と教育』 31-46頁	子どもたちの道徳性の社会的形成に関して、実際に道徳教育に重点において取り組んでいる学校の取組の実態を分析するとともに、それらの取組が子どもたちにどのように影響しているのかを調査研究を基に明らかにした。 (共同執筆者) 押谷由夫、伴恒信
8. 「道徳の時間」特設批判論の再検討(下)	単	2004年6月	昭和女子大学紀要 『学苑』 2-13頁	「道徳の時間」特設批判論の再検討(上)で論述した内容の続編である。昭和33年に特設された道徳の時間に対する当時の批判に対する総括的分析を行った。
9. 新教育課程が求める道徳教育の理念と実践	単	2003年10月	日本道徳教育学会紀要 『道徳と教育』 (No.316・317) 2003年 237-251頁	新教育課程において道徳教育がどのように重視されているかを教育の本質と今日的課題を踏まえて考察し、これからの道徳教育のあり方と展開について新教育課程で提案されていることを中心としながら、論じている。
10. 道徳の時間」特設批判論の再検討(上)	単	2002年6月	昭和女子大学紀要 『学苑』 2-13頁	昭和33年に、様々な批判の中で小学校・中学校において道徳の時間が特設された。45年以上を経て、いまだに道徳の時間への批判が繰り返される。これからの学校教育の大きな課題として道徳教育の充実が挙げられるが、そのためには道徳の時間の充実が不可欠である。33年当時になされていた批判が妥当なものであったかどうか、この時点で総括し、真の課題を明らかにした。
11. ストレス社会に対応した心の教育・道徳教育	単	2002年3月	日本道徳教育学会紀要 『道徳と教育』 No310・311 3-21頁	これからの社会をストレス社会と捉えて、その中で豊かな心をはぐくむにはどうすればいいのかについて論述した。特に、ヒーリング、ケアリング、ドリミングをキーワードに、具体的対応について分析

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
12. れからの心の教育の 展開一概念の整理と今後の課題を中心として		1999年10月	日本道徳教育学会紀要『道徳と教育』No. 301 233-242頁	した。 心の教育、道徳教育は国民的課題であるが、学校、家庭、地域社会が一体となって取り組むには、共通の土俵を提供するための用語の概念の整理をする必要がある。本稿では、概念整理をするとともに、今後の課題を明確にした。
13. 『「道徳の時間」 特設の課程に関する研究 —社会的・理論 的背景を中心として—』 (博士論文)	単	1998年8月	広島大学に提出 1-312頁	本論文は、終戦から「道徳の時間」特設に至る、戦後の道徳教育確立の課程を社会的・理論的背景を中心に、教育論としての側面からとらえなおし、「道徳の時間」特設の教育的意味を整理・統合しようとするものである。具体的には、戦後の道徳教育改革の動向を教育論的文脈において整理しなおし、戦後の連続的な道徳教育改革の流れの中に「道徳の時間」特設が位置づけられることを検証した。
14. 豊かな人間性の育成と道徳教育	単	1998年10月	日本道徳教育学会『道徳と教育』紀要No. 298・299 3-21頁	また、「道徳の時間」特設にかかわる審議過程と文部省側の見解、当時の道徳教育をめぐる社会的動向、「道徳の時間」特設において重要な役割を果たした研究者の主張を見ることによって、「道徳の時間」特設の社会的・理論的背景の全体像とその教育的意味を明らかにした。
15. 戦後の道徳教育における「道徳の時間」設置の意義と課題	単	1996年10月	日本道徳教育学会紀要『道徳と教育』No. 292・293 35-51頁	豊かな人間性のとらえ方について、中央教育審議会答申、哲学・倫理学、日常生活上の用法等から、明確にし、豊かな人間性を育てる際の留意点として、人間の弱さやもろさを過度に強調することの弊害を述べ、具体的な方法について論考した。
16. これからの道徳の 時間の在り方への 提唱	単	1995年10月	日本道徳教育学会紀要『道徳と教育』No. 288・289 81-89頁	戦後の道徳教育において画期的な出来事とされる昭和33年の道徳の時間設置について、その経緯と具体的な内容を検討することから、道徳の時間の設置は戦後の道徳教育の流れと相反するものではなく、むしろ連続的な流れのなかにあることを明確にした。
17. 戦後の道徳教育の 歩みと総合単元的な道徳学習	単	1994年10月	日本道徳教育学会紀要『道徳と教育』No. 282・283 4-15頁	昭和33年に設置された道徳の時間のこれからの在り方を検討するために、設置された当時の理念と今日までの道徳の時間の変遷及び具体的な実践の実態等を考慮し、具体的な指導の方法について提案を行なっている。
18. 豊かな体験による 道徳教育の充実	単	1991年10月	日本道徳教育学会紀要『道徳と教育』No. 272 40-46頁	これからの道徳教育の指導の在り方として、新しく総合単元的な道徳学習という方法について、その理論的背景と、歴史的な経緯を踏まえて、独自性を明らかにしつつ、具体的な開の仕方について論考している。
19. 子どもの規範形成過程に関する一考察	単	1989年3月	高松短期大学『研究紀要』第9号 11-20頁	これからの道徳教育の指導の在り方として、新しく総合単元的な道徳学習という方法について、その理論的背景と、歴史的な経緯を踏まえて、独自性を明らかにしつつ、具体的な開の仕方について論考している。
20. 子どもの仲間関係 の特質と親子関係 との関連に関する一考察	単	1988年3月	高知女子大学紀要『人文・社会科学編』第35巻 1-14頁	子どもの規範形成過程について、アメリカの社会学者のG. C. ホーマンズの交換理論を援用しながら、個人規範の拡張パターンを集団規範、社会規範との関連を中心に論考した。
21. 子どもの仲間選択 の特質と規定因に 関する研究	単	1986年3月	高知女子大学紀要『人文・社会科学編』第34巻 1-17頁	社会問題化しているいじめ現象を取り上げ、その要因を分析するとともに、家族社会学の立場から、その背景に潜む親子の関係について、アンケート調査をもとに考察し、いじめに対する家庭への働きかけについて論考した。
22. 母親の子ども評価 を規定する要因に 関する一考察	単	1985年3月	日本保育学会紀要『保育学年報』(1985年版) 132-144頁	現代社会における子どもの仲間集団関係の特質及び規定因を明らかにした。そして、今日の子どもにとって望ましい仲間集団をつくっていくには何が必要か、また、仲間集団形成能力の育成をどのようにすればいいのかについて論考した。
23. 母親のテレビ視聴 行動と子どもの社 会化に関する研究	単	1984年10月	日本生涯教育学会紀要『日本生涯教育学会年報』第6号 135-149頁	母親の養育態度と母親の子供評価との関連、教師の子ども評価と母親の子ども評価を比較することから、母親の子ども評価を規定する要因について、調査を行い、多変量解析等を用いて分析をし、そのおおよそを明らかにした。
24. 子どもの学習コミュニ ティづくりへの一視点	単	1981年3月	高松短期大学『研究紀要』第12号 35-46頁	母親のテレビ視聴行動が子どもの社会化にどのような影響を与えるのかを実証的に明らかにしようとした。母親のテレビ視聴行動と子どもの様子をアンケート調査や観察をもとに調査し、多変量解析をもちいて論考した。
25. 集団宿泊学習の効 果に関する	単	1981年10月	日本生涯教育学会紀要	子どもの学習を考える新しい概念として、子どもの学習コミュニティを提唱し、理論的に論及するとともに、高松市を事例として、具体的にどのように取り組んでいけばよいかを、理論的、実証的に明らかにした。
25. 集団宿泊学習の効 果に関する	単	1981年10月	日本生涯教育学会紀要	子どもの学習コミュニティづくりの研究の一環とし

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
一考察			『日本生涯教育学会年報』第3号 291-306頁	て、全国的に見て先進的な校外学習として文化施設を利用した集団宿泊学習が行なわれている香川県の五色台教育を対象に調査を行い、集団宿泊学習の効果と今後の課題について論考した。
26. 子どもの文化施設 利用学習 の可能性 に関する一考察	単	1980年10月	日本教育社会学会紀要 『教育社会学研究』 第34集 114-125頁	地域における子どもの学習施設としてもっとも大きな役割果たすと予想される学校での郊外学習で利用する文化施設 地域における子どもの学習態と効果について実証的に明かにすることから、今後の文化施設利用学習の可能性を論じた。
27. 子どもの行動分析の基礎 一ホ ーマンズとパーソンズの社会行動 論を媒介として	単	1978年3月	広島大学教育学部紀要 第1部第27号 39-49頁	子どもの行動分析にとって、子ども自身が感じる心理的環境重視の立場から、アメリカの代表的社会学者であるG. C. ホーマンズとT. パーソンズの理論を再検討し、子どもの社会的行動のメカニズムと研究枠組みについて論考した。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
1. 「特別の教科 道徳」の設置で道 徳教育や教育課程がどう変わるの か	単	2015年7月	日本カリキュラム学会	シンポジウムにおける司会・コーディネーターとして 大会委員長としての立場から、教育課程の専門家であるシンポジストに対して教育課程論から見た道徳教育及び「特別の教科道徳」について、どのように位置づけられ、これからの役割が期待されるかを中心にシンポジウムを運営した。
2. 日本における道徳教育改革	単	2015年3月23 日	ヘルシンキ大学宗教倫 理道徳研究会(招待講演)	日本の道徳教育改革について、戦後の道徳教育の歴史と動向をもとに道徳教育の本質とかかわらせて講演した。特に新しく設置される「特別の教科道徳」についてその理念と具体的実践について詳細に述べた。
3. 改めて「特別の教科 道徳」の意 義を問う		2015年11月	日本道徳教育学会	シンポジウムにおけるシンポジストとして 新設される「特別の教科道徳」について、その背景や期待されること及び具体的取り組みに関する課題などについて議論し、総合単元的道徳学習の必要で糸可能性について提案する
4. グローバルな視点から乳幼児教育 の再構築を考える	単	2015年11月	日本乳幼児教育学会	シンポジウムにおけるシンポジストとして 乳幼児教育の在り方についてグローバルな視点から日本の乳幼児教育の現状と課題を分析し、心の成長と学びの連続性を考慮した乳幼児教育の在り方について提言した
2. 学会発表				
3. 総説				
1. 「国家百年の礎を創る」気概をも って一モラル・ジャパン・プロジ ェクトの発信を一	単	2014年3月	日本道徳教育学会編『 道徳と教育』	日本道徳教育学会の紀要である『道徳と教育』の巻頭言に、会長としての道徳教育研究への期待と本学会の役割について論じた。1-2頁
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				
1. 道徳教育課題に対応する「特別の 教科道徳」を要とする道徳教育プ ログラムの開発研究	共	2017年4月	研究代表者 押谷由夫 日本学術振興会 平成2 9年度基盤研究(B) 課 題番号 17H02706 研究期間 平成29年4月 ～平成33年3月(予定)	
2. 「特別の教科道徳」を要にしたプ ロジェクト型道徳学習プログラムの 開発に関する研究	共	2016年4月	研究代表者 押谷由夫 日本学術振興会 平成2 8年度 挑戦的萌芽研究 課題番号: 16K13586 平成28年4月～平成31年 3月(予定)	
3. 人格形成の中核となる幼・小・中 連携による道徳教育推進プログラ ムの開発に関する研究	共	2013年4月	研究代表者 押谷由夫 日本学術振興会 平成2 5年度基盤研究B 課題 番号: 25285250 平成25年4月～平成28年 3月	
4. 高等学校における道徳教育のグラ ンドデザインの開発に関する研究	共	2013年4月	研究代表者 押谷由夫 日本学術振興会 平成2	

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
6. 研究費の取得状況				
5. 学校・家庭・地域連携型道徳教育推進プログラムの開発に関する総合的研究	共	2009年4月	5年度 挑戦的萌芽研究 課題番号：25590270 平成25年4月～平成28年3月 研究代表者 押谷由夫 日本学術振興会 平成21年度 基盤研究B 課題番号：21330205 平成21年4月～平成25年3月	
6. 学校教育の基礎となる道徳教育経営プラン開発に関する総合的・実践的研究	共	2006年4月	研究代表者 押谷由夫 日本学術振興会 平成18年度 基盤研究C 課題番号：18530738 平成18年4月～平成21年3月	
7. 自分づくり」道徳学習プログラム開発に関する総合的研究学校教育の基礎となる道徳教育経営プラン開発に関する総合的・実践的研究	単	2004年4月	研究代表者 押谷由夫 日本学術振興会 平成16年度 基盤研究C 課題番号：16530612 平成16年4月～平成18年3月	

学会及び社会における活動等

年月日	事項